

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成23年5月成田市教育委員会会議：定例会

期日 平成23年5月31日(火) 開会：午後2時00分 閉会：午後3時45分

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	小川信子	委員長職務代理者	秋山皓一
委員	山口恵子	教育長	佐藤玉江

### 出席職員

教育長	佐藤玉江(再掲)	教育総務部長	関川義雄
生涯学習部長	吉田昭二	教育総務課長	坂本公男
学校施設課長	葛生行広	学務課長	高山勇
教育指導課長	五十嵐正憲	学校給食センター所長	藤崎吉宣
生涯学習課長	藤崎祐司	生涯スポーツ課長	檜垣好克
公民館長	須藤清子	図書館長	大木禎夫
生涯学習課主幹	堀越美好	教育総務課主幹(書記)	秋山雅和

傍聴人：0人

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

##### ① 主催事業

- 5月11日 平成23年度成田市生涯大学院入学式・開講式について  
今年は34期生、82名が入学した。在学生である2年生・3年生も出席のもとで開催し、総長である小泉市長の前で一人ひとりの呼名を行った。
- 5月11日 成田市校長会議について  
震災から2ヶ月ということもあり、TVや様々な報道を見ての感想を話させてもらった。被災地では、子どもたちがそれぞれ困難な状況の中でも元気にボランティア活動を行っていたり、学校が始まって集まってきた子どもたちには、どの子にも笑顔があふれていた。それを目にして学校の持つ力というものを改めて感じたので、学校というところはそういうところなんだということ、改めて学校の役割について再確認する必要があるということ話を話させてもらった。
- 5月13日 JR成田駅東口再開発事業複合施設関連施設の視察について  
複合施設の公益部分に入る施設として、市民から一番要望の多いホールやギャラリーを

計画の中に生かすための参考にするため先進地視察をした。生涯学習課の担当者は今月6日にも、その後にも視察をしているので、後ほどまとめて報告がある。

- ・ 5月14日 平成23年度明治大学・成田社会人大学開講式について

国際社会課程は123名、地域社会課程が82名、緑地環境課程は49名の入学があった。国際社会課程では今年は主に「中国」について学ぶこととしており、地域社会課程では医療の新時代を迎えて、最先端の医療現場から街づくりを考えるということで、本市では大学誘致とも関係してくる内容だが、地域社会での医療問題について市民の協力を得ながらどのように考えていくべきかを学ぶ。緑地環境課程では農業体験を通じて農業のあり方を学ぶという予定になっている。学生の皆さんが非常に強い思いで参加されているのが伝わってくる開講式であった。

- ・ 5月16日～7月6日 千葉県北総教育事務所所長訪問、次長訪問、管理訪問について  
教育委員にも参加していただくこととなっている。私としても出来る限り参加し、学校の様子などを見させていただく予定でいる。

- ・ 5月17日～19日 校長目標申告・教育長面談について

教育総務部長、学務課長とともに各校長との面談を実施。昨年の課題を分析・整理したうえで今年の目標を申告していただいた。「知・徳・体」の充実を目標にということで、やはり学力の向上を掲げる方が多くいた。具体的な目標を掲げる方もいれば、中には理論先行の目標という方もいたが、いずれにしてもそれぞれの学校の特徴を生かした目標を立ててもらったと理解している。

- ・ 5月25日 POPラン実行委員会について

今年は11月6日に実施することとなっている。参加者も多くなったことから、途中で2時間半という時間制限による関門を設けることが決定された。最後尾になった方で必要な方には車で戻ってもらうなど安全への配慮は行うこととしている。

## 市議会

- ・ 5月26日 平成23年5月成田市議会臨時会について

選挙後の初議会と言うことで、議長、副議長、教育民生常任委員会を始めとする各常任委員会、諮問機関の委員等の人事案件を決定した。また、震災に関する補正予算の専決処分についての議案も承認をいただいた。

## その他

- ・ 4月28日 成田市災害対策本部会議について

この日で本部は解散とした。但し、「東日本大震災及び節電対策本部」と名称変更しその後の課題への対応を行っている。近頃では放射能への対応が主な内容になってきている。

- ・ 4月28日 地芝居サミット実行委員会について

既にお知らせしたとおり11月5日～6日に開催する。5日は地芝居を伝承している各地方の公演やシンポジウムなどを開催し、6日は「伊能歌舞伎」と取香の「三番叟」を演じていただく予定である。その間には、NHKアナウンサーの山川静夫さんの講演会を開催することとしている。

- ・ 4月29日 成田市体育協会定期総会について  
 年度当初と言うことで予算・決算を審議する定例総会が開催された。
- ・ 5月 2日 平成23年度成田市地域防犯推進員委嘱状交付式について  
 各地域で防災にご尽力をいただく方々を防犯推進員として市長から委嘱状の交付をした。各学校からは校長や教頭及びPTA会長に委員になっていただいている。
- ・ 5月 7日 成田市PTA連絡協議会定期総会について  
 年度当初の定期総会であり、他の総会同様に予算・決算の審議を行った。  
 PTA連協の事務局について、今年あまり学校に頼り過ぎない運営にする人員配置を行って、事務改善を図ることとなった。また、震災被災者への支援をするということでは、今すぐよりもある程度の期間を過ぎてから資金が必要になる場面があるであろうとの想定で、一年間をかけて様々な行事等の際に募金を行い、震災被災地への教育資金として寄付をすることとした。会議後の懇親会の席でも募金箱が回ってきた。
- ・ 5月 8日 「2011 NARITA 少年の翼」結団式について  
 成田青年会議所の主催で、今年も8月の夏休み期間中に姉妹都市であるニュージーランドのフォクストンへ小中学生を派遣する。結団式を行い、この日から中央公民館で研修を開始した。外国での様々な体験を積んで、一回り成長して帰国する子どもたちに会うのが今から楽しみである。
- ・ 5月10日 印旛地区教育研究会定期総会について  
 会場市の教育長としてあいさつをさせていただいた。学校はやはり子どもたちのためにあるところなので、常に子どものためにと意識で日ごろの活動をしていただきたいと内容のあいさつをした。
- ・ 5月14日 平成23年度成田市戦没者追悼式について  
 参加者が年々少なくなってきたが、子々孫々へ伝えていかなければならないものである。これまでは平日に開催していた行事であるが今年は土曜日に開催することとなった。結果的にはそれほど参加者が増えたわけではなかった。今後開催形式を検討するなどの努力をしていくことは必要と感じている。
- ・ 5月15日 平成23年度成田ユネスコ協会定期総会について  
 今年は関東ブロックの当番市であり、10月15日～16日に成田を会場として開催される予定となっているとのこと。  
 ユネスコ協会には福島からの避難民、特にお子さんへの支援を手厚く行っていただいていることもあり、感謝の意もこめて総会に出席させていただいた。
- ・ 5月15日 伊能歌舞伎保存会総会について  
 主に今年のサミットのことで協議がなされた。
- ・ 5月17日・18日 ISO審査前会議・審査後会議について  
 両日かけて担当課がそれぞれ審査を受けた。
- ・ 5月18日 第39回第二部会小学校陸上競技大会について  
 成田、栄町、富里市の40ほどの小学校5～6年生が集まったの競技会が行われた。成績上位者が本日5月31日の印旛郡陸上競技大会への参加資格を得た。
- ・ 5月18日 平成23年度第1回教科用図書印旛採択地区協議会について

委員長と私が委員として参加。採択の方法について協議し、昨年同様に今年も投票によって選定することとした。

- ・ 5月23日 (財)印旛郡市文化財センター第81回理事会について  
予算決算について審議した後、センター施設が9月には移転することとなっており、移転先が定まったのでその場所を視察した。
- ・ 5月25日 (財)成田市教育文化振興財団平成23年度第1回理事会について  
定例総会であり、予算・決算を審査した。
- ・ 5月26日 健康ちば推進員総会について  
成田市の体育指導委員と地区保健推進員で構成されている。89名で構成されているが、当日の出席は15名のみ。委任状出席が50名であり、あまりにも出席率が悪く、開催日程や方法などに検討が必要と感じた。
- ・ 5月31日 任期付職員採用面接について  
私のほか教育総務部長も担当したが、任期付職員としての保育士と保健師の採用面接を行った。
- ・ 5月31日 印旛郡市小学校陸上競技大会について  
5月18日の部会の大会の結果を受けて、本日午前中に開催された。

#### 《教育長報告に対する主な質疑》

委員：所長訪問、次長訪問に参加した。その際に玉造中学校の英語の授業を参観したが、すばらしい授業でした。1年生でもALTの話もよく理解できて、他市からの転入生がいたら苦勞するだろうなという印象すら受けた。成田中学校や下総中学校での授業を参観した際に一つ残念だったことは、先生が教科書の何ページを開いてとか、立つとか座るなどの簡単な指示を日本語でしていたこと。また、ALTの言葉を先生がすぐに訳してしまっていたのは少し残念な気がした。小学校での英語の授業と中学校でのそれとの連携が若干うまく行っていないのではないかと感じた。

下総中学校では、授業の最後に皆で先生にありがとうございましたと言っていたのが印象的でとても良かったと思う。礼儀も身に付くし、徐々に気持ちもついていくのではないかと感じた。

委員：若い先生は授業を行うことで精一杯な感じであり、ALTがいるのに活かしてきれていない気がしてもったいないとの感じを受けた。その学校では日本の先生のやり方ある程度理解しているベテランのALTだったので問題はなかったかもしれないが、慣れていないとネイティブの先生は欲求不満になってしまうのではないかと感じを受けた。ALTの指導を活かす授業を進めるよう頑張りたいと感じた。

委員：4月28日の地芝居サミット実行委員会に関して、山川静夫さんの講演会とのことだが、どのような方でどのような内容の講演になるのか。

佐藤教育長：山川さんはNHKのアナウンサーで、歌舞伎が好きで精通されている方。関係する著書も多数出版されている。

委員：災害対策本部が解散したとの事だが、最近では放射能汚染のことがかなり問題になっていて、お茶の葉からも放射線が確認された等のニュースがあるが、市内の学校な

どの状況はいかがか。

佐藤教育長：災害対策本部に関しては、これほどの大規模災害はかつて経験がなく、地震直後の避難所の開設などではマニュアルがあってもうまく機能しなかった面が見受けられた。様々な混乱が生じてしまい、実践的、現実的には作られていないとの大きな反省点が明確になった。

現在では、電力の節減が大きな課題となっていて、市としてどのように対応していくのかについての検討もしている。

福島からの避難民の方々も受け入れて、中台の体育館で対応したがその後、中郷小学校に移り、やがて市内のホテルに移られたので、対応としては落ち着いたことで本部は解散となった。

その時点では放射能についてはあまり大きな問題となっておらず、むしろ節電と言うことのほうが大きな問題であったので、「東日本大震災及び節電対策本部」という名称になったものと思う。放射能については、教育委員会とすれば子どもたちへの影響がもっとも懸念されることなので、各学校の放射線量の測定を行い公表も行った。今後は環境部が中心となってやっていくこととなっている。なお、放射能の状況については、「その他」の中で報告させていただく。

### 3. 議 事

#### (1) 議 案

【成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決】

(これより非公開とする。)

議案第1号 成田市教育事務評価委員の委嘱について

《議決結果》

承 認

議案第2号 工事請負契約の締結について（公津の杜小学校校舎増築工事）

《議決結果》

可 決

議案第3号 成田市学校適応専門指導員の任命について

《議決結果》

承 認

議案第4号 財産の取得について（下総中学校新設グラウンド整備事業）

《議決結果》

可 決

## 議案第5号 財産の取得について（厨房機器）

《議決結果》

可 決

（これで非公開を終わる。）

### （2）報告事項

#### 報告第1号 駅前再開発ビル公益施設（ホール・ギャラリー）について

藤崎生涯学習課長 資料に基づき報告

（要旨）

駅前再開発ビルにおける公益施設は、市長部局のJR成田駅東口公益施設検討部会において、全庁的に施設の内容を調査・検討してきた。最終的に市民からの要望が強い施設としてホールとギャラリーという芸術文化に特化した施設とする方向が示された。

生涯学習課ではホールとギャラリーの計画をどのようなものにしていくか、先進地視察を行って検討してきた。

東京都にある王子製紙の王子ホールはクラシックに特化したホールで、銀座にあって最高レベルのホールとして評価されている施設。

続いて、文京区の文京シビックホールは、成田市が予定している施設とほぼ同等の面積を有する施設で、可動式のいす席を擁する施設。江戸川東部フレンドホールも本市の計画施設と同程度の規模だが、いす席は固定式だった。東京国際フォーラムは引き出し式収納いすと可動式いすの組み合わせだった。

これら施設を比較検討してきたが、市民の要望を踏まえて、いったい何をやるのか、固定いすにした場合のメリット・デメリット、興行収入を見込むのか見込まないのか、あるいは運営上の問題ではあるが指定管理者とするのかしないのかなど様々な問題がある。

そのような中で音楽ホールとして考えると、東京国際フォーラムはスタジオ的な役目も果たすホールで、残響音を調節できるというシステムが備わっているということ。王子ホールはピアノなどクラシック音楽用に特化している。東部フレンドホールでは親子室を備えている。しかし、稼働状況で見ると発表会程度のものしか出来ない。また、シビックホールでも同様だが、興行的に可能な数字とするには、例えば70万円程度の出演者の場合に、350席程度のホールでは4,000円から5,000円の入場料を徴収しなければ採算が合わないことになってしまう。興行収入を見込むのかを考えた場合には、座席を固定してしまうと採算的に難しい。しかし、東京国際フォーラムなどはその程度の入場料でも多くの人が集まりやすいし、出演者の選定もしやすいというような地域特性、優位性などもあろうかと思う。

成田市ではどのような施設を目指すのかと言う面では、駅前での施設ということを考えれば

イベントなどをやりやすい、様々な利用が可能な方式として、可動式のいすを擁する施設として、東京国際フォーラムのような施設を参考にしていけばよいのではないかと思っている。

ギャラリーについては、面積ではなく壁面で利用しやすさを測ることになるので、比較のための基準として壁面延長を記載した。銀座にあるセントラル美術館がビルの5・6・7階で、銀座画廊と一緒にいるが、ビルの中にあるギャラリーとしては広いほうだと思う。資生堂ギャラリーはステータスもあり、横浜市民ギャラリーは前身は美術館であったが別に美術館が出来たので、今はギャラリーとして使用しているもの。フロアで区切って多種多様な利用に供しているということ。船橋のギャラリーは人気が高くて順番待ちの状態が続いているとのこと。

本市の駅前ビルの素案では3・4・5階の各フロアに現段階での一応の案とのことだが図面のような計画をしている。

ホールを設計するに当たり、ビル全体の形状や面積は決まっているので、その中でどのような利用が可能かと言うこととなる。面積的には約350㎡。

昇降装置付きの舞台と客席を可動席で170席、置き型を130席程度は可能であろう。その他、倉庫、事務室、楽屋、楽屋としても使えるし音楽室・リハーサル室としても使える部屋などを計画している。

次にギャラリーだが、4階には117㎡のギャラリーを2つ作り、分けても一括でも使えるようにする予定。この広さは米屋さんのギャラリーが100㎡を若干下回っているので、同程度のものが2つ出来るということ。その上のフロアにも同様の形態のものを2つ、更に101㎡のものを1つ作ることで、全体で560㎡程度、佐倉市民美術館程度の施設となると想定している。

音楽的には固定式のいすの方がきしみ音の問題は少ないが、可動式のほうが施設の利用可能性の面では優れているとの判断をしている。まだ、素案なので今後市民の皆さんの様々な意見を伺いながらつめていくこととなる。

今後の予定としては、6月議会の教育民生常任委員会で素案を報告し、7月にはパブリックコメントを行い、9月議会で報告し12月議会に都市部から契約案件を上程する予定。

## 報告第2号 成田市公民館の設置及び管理に関する条例及び成田市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正するについて

須藤公民館長 資料に基づき報告

(要旨)

前回、平成23年4月成田市教育委員会会議において条件付きで承認いただいたが、現在、市長部局と協議を行っているのでその経過報告をする。

まず、議案第4号「成田市公民館の設置及び管理に関する条例施行規則」の一部を改正するについては、附属設備として音響反射板を追加するだけの改正とし、上限額の改正については使用料全体の見直しに合わせて改正することで調整中である。

また、議案第12号「成田市公民館の設置及び管理に関する条例」の一部を改正するについては、合併等の経緯もあり使用料の整合性が取れていないという問題があり、使用料全体の見直しを行い根拠の明確化を図ることが必要である。このため、一部改正ではなく本条例で定め

る使用料全体の抜本的見直しをすることで調整中である。

#### 4. その他

五十嵐教育指導課長：これまでに一般市民の方あるいは小中学校の保護者の方から、東日本大震災に伴う東京電力福島第1原子力発電所の放射能の漏出について、問い合わせが何件かあった。そこで、教育委員会として市内各小中学校の放射線量の測定を行い、保護者への報告・ホームページでの公表を行ったので報告する。

消防本部が所有する簡易型測定器により、各学校の校庭の中央部で地表から50cm、100cmの高さでの測定を行い、最小値と最大値を公表した。最大値で最も高い値は中台小学校での0.28μシーベルト/hである。文部科学省から平成23年4月19日に発表された福島県内の校舎・校庭等の利用判断の暫定的な考え方の目安となっている3.8μシーベルト/hに比して非常に小さな値であるので、成田市内の小中学校でのグラウンドの使用については問題ないと判断した。

#### 《放射線量測定に対する主な質疑》

委員：プールの利用等についても心配している保護者もいると思うが、その点はいかがか。

プール授業を実施することについても質問などもあるのではないかと。

五十嵐教育指導課長：プールについての電話での問い合わせは入っている。プール授業を行うことについての成田市としての方針を聞かせて欲しいと言うようなもので、わが子はプールに入れない、などといった種類の話はない。プール授業の実施に際しては、プールの水を入れ替えるし、新しい水は心配の無い飲料水なので、仮に新しい水をプールに入れた後に空気中の放射性物質が降りかかったとしても現状では極めて微量であり、問題は無いものと判断している。

関川教育総務部長：千葉県を示した見解として、市原での測定結果になるが、そこに落ちたチリや灰がプールの容積に対してどの程度の割合になるのかを試算した。その結果によると、大体セシウムが8ベクレル/Kg、ヨウ素が38ベクレル/Kgということで、国の基準に照らして問題ないとの見解を出している。

本日の「東日本大震災及び節電対策会議」でも話題となったが、測定結果については、測定の仕方はもちろん、放射線というのは人体からも出ており測定する人によっても数値が変わってしまう、個体差、男女によっても差異がある。従って、検出結果の数値に対して僅かな高低にあまりにとらわれすぎることはないという感じを持ったところである。それでも、文科省のお知らせにある数値、国の定める基準をまったく信用しない方もおり、議論がかみ合わないと言う面があることは仕方が無いと思っている。



## 5. 委員長閉会宣言